

回答書

令和8年度地域AX・DX人材育成基盤強化実施業務に係る質問について、以下のとおり回答します。

	資料該当箇所	質問事項	回答
1	(別紙1)仕様書 3および4 (1) 企画・運営管理・連携体制の構築に関すること	仕様書において、企業、鳥取大学、支援機関等が連携し、実践的な取組を通じて産学官の連携体制を構築することが示されています。 鳥取大学、支援機関、県内企業等との連携にあたっては、受託者が独自に関係機関を開拓・調整することを前提とするのか、鳥取県様から関係機関への接続・調整に関する支援をいただける想定なのか、現時点での想定を御教示ください。	鳥取大学、支援機関、県内企業等との連携については、提案者において、本業務の目的を踏まえ、関係機関との連携体制の構築に向けた効果的な実施方針を示すことが望ましいと考えています。 なお、発注者においても、必要に応じて関係機関への接続や調整に協力することを想定しています。
2	(別紙1)仕様書 4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること イ ワークショップの実施	鳥取大学教員・学生等の参画について、現時点で想定されている関与範囲があれば御教示ください。たとえば、講義・助言、ワークショップ参加、伴走支援対象企業への助言、成果発表会への参加等、どのような関わり方を想定されているかを確認させてください。	講義等を実施する場合、専門的知見の提供として鳥取大学教員の参画を想定しています。 ワークショップ及び成果発表会については、鳥取大学教員及び学生が参画することを想定しています。 伴走支援については、鳥取大学教員及び学生の参画は必須ではありませんが、知見を活用する機会があれば望ましいものと考えています。 具体的な関与内容については、提案内容を踏まえ、受注者決定後、協議のうえ定めます。
3	(別紙1)仕様書 4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること ウ AX・DX実装の伴走支援	AX・DX実装伴走支援の対象企業について、受講企業の中からどのような基準・プロセスで選定する想定でしょうか。 受託者から、取組意欲、経営層の関与、課題の具体性、実装可能性、モデル事例としての横展開可能性等を踏まえた選定方法を提案することは可能でしょうか。	伴走支援の対象企業については、特定分野において地域のモデル事例、又はベストプラクティスとなるような取組が期待できる企業を選定することを想定しています。 選定に当たっては、ご質問に記載の観点を踏まえた選定方法をご提案いただくことは可能です。
4	プロポーザル実施要領 8 審査会	審査会は対面形式とのことですが、参加上限人数のご指定はございますでしょうか？ また、複数名参加できる場合、1名のみ対面、残りの者がオンライン（提案者側でインターネット環境とPCを用意）とすることは可能でしょうか？	参加上限人数は設定しておりませんが、1提案者あたり4名程度を想定しております。 また、オンライン併用は認めておりませんので、参加される方は全員審査会場（鳥取県庁舎内を予定）にお越しください。

5	(別紙1)仕様書 4 (3) 経営層及び 企業内推進役向け育成プログラム に関すること イ ワークショップの実施 (ア) a 企業、鳥取大学、学生の参加	「企業、鳥取大学、学生等が一体となって参加する AX・DX ワークショップを実施すること。」とありますが、ここでいう「学生」とは大学生等ではなく、受講者（経営層又は企業内で AX・DX を推進する中核人材）を指している理解でよろしいでしょうか？	ここでいう「学生」とは、受講者ではなく、鳥取大学の大学生又は大学院生等を想定しています。
6	(別紙1)仕様書 4 (3) 経営層及び 企業内推進役向け育成プログラム に関すること イ ワークショップの実施 (ア) d 企業のメンター参画	「なお、企業の参画について、提案の中で基本的な考え方を示すとともに、候補企業を提示すること。」とありますが、提案時点までに候補企業にメンター参画の合意を取り付けておく必要はございませんでしょうか？ また、前項cと同様に謝金および旅費等の必要な経費の発生が見込まれる場合は受注者が負担するという理解でよろしいでしょうか？	提案時点で、候補企業からメンター参画の正式な合意を得ていることまでは必須ではありません。 ただし、正式な内諾又は協力の見込みがある場合は、実現可能性の高い提案として望ましいものと考えています。 また、メンター企業の参画に当たり、謝金、旅費等の必要な経費が発生する場合は、受注者負担としてください。
7	(別紙1)仕様書 4 (7) 受講者募集に関すること	「チラシは、幅広い業種の企業が関心を持ちやすく、参加意欲を喚起できるよう工夫された構成及び表現とすること。」とありますが、チラシやフォーム、広報活動の対象は「4 (4) 支援機関向け育成プログラム」の支援機関も含まれる理解でよろしいでしょうか？ もしくは、支援機関に関しては貴県よりお声がけされるご予定でしょうか？	チラシ、申込フォーム及び広報活動の対象には、支援機関向け育成プログラムの対象となる支援機関も含まれます。 支援機関への周知については、原則、受注者において実施してください。なお、発注者においても、必要に応じて情報提供や周知協力を行う場合があります。

8	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること</p> <p>イ ワークショップの実施</p> <p>(ア) c 鳥取大学との連携</p>	<p>鳥取大学との連携に関し、以下の事項についてご教示ください。</p> <p>(1) 本業務に関し、県と鳥取大学との間で事前の協議・合意は存在するでしょうか。存在する場合、受注者が鳥取大学と連絡を取る際の窓口（学内担当部署・担当者）をご教示ください。</p> <p>(2) 連携を想定する学部・研究科・センター（例：工学部電気情報系学科、データサイエンス教育センター、研究推進機構等）について、県側の想定または推奨はありますでしょうか。</p> <p>(3) 鳥取大学教員等の参画に係る謝金単価について、県側で定める標準単価または上限の目安はありますでしょうか。</p>	<p>(1) 鳥取大学との連携については、発注者において同大学と事前の基本的な調整は行っています。</p> <p>提案者が同大学との連携内容を検討するに当たり、同大学と連絡を取る必要がある場合は、発注者にお問い合わせください。発注者において内容を確認のうえ、必要に応じて同大学の窓口をご案内します。</p> <p>なお、同大学との連携内容については、提案者において主体的に検討してください。具体的な連携内容や教員等との調整については、受注者決定後、提案内容を踏まえ、必要に応じて鳥取大学を交えた協議のうえ進めることを想定しています。</p> <p>(2) 現時点で特定の指定はありません。</p> <p>(3) 鳥取大学教員等の参画に係る謝金単価について、本業務に係る標準単価又は上限額は定めていません。必要な経費を見積に含めてください。</p>
9	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること</p> <p>イ ワークショップの実施</p> <p>(ア) d 企業のメンター参画</p>	<p>ワークショップにおけるメンター企業に関し、以下の事項についてご教示ください。</p> <p>(1) 県が想定または推奨するメンター候補企業のリスト、または県から紹介可能な企業はありますでしょうか。</p> <p>(2) 「県内に拠点をもつ（又は設置予定の）AX・DXに関する知見を有する企業」のうち、「設置予定」については、どの程度の蓋然性（例：協定締結済、進出意向表明済、業務期間内設置確定等）があれば本要件を満たすとお考えでしょうか。</p> <p>(3) メンター企業への謝金・旅費等の経費負担は受注者負担との理解で正しいでしょうか。</p>	<p>(1) 現時点で公開できるメンター候補企業のリストはありません。</p> <p>(2) 「進出意向表明済」など、県内での拠点設置又は継続的な活動が具体的に見込まれる場合を想定しています。</p> <p>(3) メンター企業の参画に当たり、謝金、旅費等の必要な経費が発生する場合は、受注者負担としてください。</p>
10	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること</p> <p>ウ AX・DX実装の伴走支援</p>	<p>AX・DX実装の伴走支援に関し、以下の事項についてご教示ください。</p> <p>(1) 伴走支援対象企業「2社以上」について、上限の目安または推奨レンジ（例：2～5社等）はありますでしょうか。</p> <p>(2) 伴走支援を通じて創出する「モデル事例」の具体的な成果物イメージ（事例集、動画、発表資料等）について、県側の想定はありますでしょうか。</p> <p>(3) PoC実装に伴うクラウド利用料、SaaSライセンス費用、ハードウェア費用等の経費負担の方針（受注者負担／対象企業負担／別途協議）をご教示ください。</p>	<p>(1) 上限は定めていません。対象企業数は多い方が望ましいと考えていますが、単に社数を増やすのではなく、支援の質、成果創出の可能性及び実現可能性を踏まえ、適切な社数をご提案ください。</p> <p>(2) モデル事例の成果物については、成果発表会で使用する発表資料を想定しています。加えて、事例集等、事業効果を高める成果物があれば、より望ましいと考えています。</p> <p>(3) 基本的には対象企業の負担とすることを想定しています。負担の考え方の詳細については、提案内容を踏まえ、受注者決定後、協議のうえ定めます。</p>

11	(別紙1)仕様書 4 (5) 成果発表会に関すること	「県内産業の特性を踏まえた」事例発信が求められています。本業務において特に重点を置くべき産業分野（製造業（電子部品・デバイス、機械等）、観光業、農林水産業、医療・創薬、BPO・データセンター、サービス業等）について、県の政策的重点や優先順位があればご教示ください。 特に「とっとりDXラボ」「鳥取県産業振興未来ビジョン」等の既存県施策との連携・整合性をどのように図るべきかをご教示ください。	本業務における産業分野の政策的重点や優先順位は定めておりませんが、県の産業政策の方向性としては、鳥取県産業振興未来ビジョンを基本としているため、同ビジョンに示されている分野等を踏まえた連携を意識した提案が望ましいと考えています。
12	(別紙1)仕様書 3 本業務の目的	県内には既に「とっとりDXラボ」、鳥取県産業技術センターによるDX推進研修、一般社団法人鳥取県情報産業協会等による人材育成プログラム等の取組が存在すると認識しております。本業務との関係について、以下の事項をご教示ください。 (1) 既存事業との連携・棲み分けの基本方針はありますか。 (2) 既存事業の受講者・修了者を本業務の受講者として取り込むこと、または既存事業から伴走支援対象企業を抽出することは想定されているでしょうか。 (3) 過年度の類似事業（DX人材育成事業等）の成果物・受講者属性データ・アンケート結果等のうち、受注者に提供可能な参考資料はございますでしょうか。	(1) 既存事業では、主に県内企業の人材育成を中心に実施しているところですが、本業務では、支援機関や県内大学も含めた地域一体での継続的な人材育成を重視しています。既存事業との連携も含め、事業効果を高める内容であればご提案ください。 (2) 現時点で具体の想定はありませんが、事業効果を高める内容であればご提案ください。 (3) 過年度の類似事業に係る資料については、受注者決定後、提供可能な範囲で共有することを想定しています。
13	(別紙1)仕様書 4 (7) 受講者募集に関すること ウ 広報・周知活動	受講者募集において「発注者と協力し」とされていますが、県側で実施いただける具体的な協力内容について、以下の事項をご教示ください。 (1) 県HPへの掲載、県の広報媒体（プレスリリース、SNS等）の活用は可能でしょうか。 (2) 商工会議所、金融機関、よろず支援拠点、市町村等の関係機関への受講者募集の通達・呼びかけは県側で実施いただけるでしょうか。 (3) 県内企業への直接の参加呼びかけ（特に経営層への働きかけ）について、県のリードまたは紹介の有無をご教示ください。	(1) 県公式サイトへの掲載等、県の広報媒体を活用した周知は可能です。 (2) 原則、受注者において実施してください。なお、発注者においても、必要に応じて情報提供や周知協力を行う場合があります。 (3) 原則、受注者において実施してください。なお、発注者においても、必要に応じて情報提供や周知協力を行う場合があります。

14	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (6) 各育成プログラム及び成果発表会の実施に関すること イ 実施方法</p>	<p>集合形式での実施及び成果発表会の会場について、以下の事項をご教示ください。</p> <p>(1) 県有施設（県民ふれあい会館、県庁会議室、各総合事務所会議室等）の優先利用、使用料減免の取扱いはありますでしょうか。</p> <p>(2) オンライン配信に使用するツール（Zoom、Microsoft Teams、Webex等）について、県側からの指定はありますでしょうか。</p> <p>(3) 配信機材、収録機材、PC、プロジェクター等について、県側からの貸与は可能でしょうか。</p>	<p>(1) 本事業において県有施設の優先利用、使用料減免の取扱いは想定していません。会場は受注者において確保してください。</p> <p>(2) オンライン配信に使用するツールについて、県からの指定はありません。</p> <p>(3) 実施に必要な機材は受注者において用意してください。</p>
15	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること イ ワークショップの実施 (ア) a 企業、鳥取大学、学生の参加</p>	<p>ワークショップにおける鳥取大学学生等の参加形態について、以下の事項をご教示ください。</p> <p>(1) 学生の参加形態は、聴講、プロジェクトワーク参加、インターンの位置付け等のいずれを想定されていますでしょうか。</p> <p>(2) 学生への謝金、交通費、実習費等の取扱い（受注者負担か、別途協議か）をご教示ください。</p> <p>(3) 学生の想定参加人数・学年（学部生／大学院生）について、県側の想定はありますでしょうか。</p>	<p>(1) 単なる聴講ではなく、実践的な参画を想定しています。参加形態も含め、ご提案ください。</p> <p>(2) 提案内容を踏まえ、受注者決定後、協議のうえ定めます。</p> <p>(3) 現時点で具体的な想定はありません。</p>
16	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>7 (5) 特許権等の使用</p>	<p>最優秀提案者として選定された後、教材、ワークショップ資料、チラシ、アンケート設計、伴走支援報告書等の成果物の著作権について、契約時の取扱いの基本方針（県帰属、受注者帰属、共有等）をご教示ください。</p> <p>また、受注者が既に保有する汎用教材・ノウハウを本業務で使用する場合の二次利用ルール（業務外利用、他案件への活用の可否等）についてもご教示ください。</p>	<p>原則として、本業務において新たに作成した教材、ワークショップ資料、チラシ、アンケート設計、伴走支援報告書等の成果物に係る著作権は、発注者に帰属し、受注者が従前から保有している汎用教材、ノウハウ、資料等に係る著作権は、受注者に帰属するものとして想定していますが、具体的な取扱いについては、受注者決定後、契約締結時に協議のうえ定めます。</p> <p>なお、受注者が従前から保有している汎用教材、ノウハウ、資料等については、契約で定める範囲を除き、発注者が本業務の目的外で利用することは想定していません。</p>

17	(別紙1)仕様書 3 本業務の目的	<p>(1) 令和9年度・10年度の本事業の予算規模、事業内容、受注者選定方式（毎年度プロポーザル方式か、複数年契約か等）に関する現時点の想定はありますでしょうか。</p> <p>(2) 初年度の受注者が次年度以降の事業設計や受注者選定にどのように関与し得るかをご教示ください。</p> <p>(3) 3か年を通じた到達目標（受講企業数、伴走支援モデル事例数、支援機関の能力向上水準等）のKPI・KGIが設定されている場合、その内容をご教示ください。</p>	<p>(1) 本業務は3か年の継続的な取組を想定していますが、予算は単年度ごとに措置されるものであり、令和9年度及び令和10年度の予算規模、事業内容、受注者選定方式等について、現時点での想定はありません。</p> <p>(2) 初年度の事業成果や改善提案等について、次年度以降の事業設計の参考とする場合があります。ただし、次年度以降の受注者選定に係る取扱いについては、現時点では未定です。</p> <p>(3) 現時点で公開できるものではありません。</p>
18	プロポーザル実施要領 8 審査会	<p>6月30日（火）実施予定の審査会について、以下の事項をご教示ください。</p> <p>(1) プレゼンテーション資料は、企画提案書と同一である必要があるか、または別途プレゼン用に編集した資料の使用が可能でしょうか。</p> <p>(2) 当日の機材（プロジェクター、スクリーン、HDMI/USB-C接続端子、無線LAN、ホワイトボード等）の有無をご教示ください。</p> <p>(3) プレゼンテーションへの登壇人数の制限はありますでしょうか。</p>	<p>(1) プレゼンテーション資料は、企画提案書と同一である必要はありませんので、プレゼンテーション用に編集した資料の使用が可能です。なお、プレゼンテーションは企画提案書の内容を説明するものであり、企画提案書に記載されていない内容を追加提案することはできません。</p> <p>(2) 当日は、スクリーン、プロジェクター、HDMIケーブル及びホワイトボードを用意する予定です。その他必要な機材がある場合は、提案者において用意してください。</p> <p>(3) 参加上限人数は設定しておりませんが、1提案者あたり4名程度を想定しています。</p>
19	(別紙1)仕様書 4 (4) 支援機関向け育成プログラムに関すること イ 伴走支援との連携	<p>支援機関向け育成プログラムの対象として「商工会議所、金融機関など」とありますが、「など」に含まれる支援機関の具体的な範囲をご教示ください。具体的には以下の機関の取扱いについてご確認ください。</p> <p>(1) 鳥取県よろず支援拠点</p> <p>(2) 公益財団法人鳥取県産業振興機構</p> <p>(3) 市町村のDX推進担当部署</p> <p>(4) 鳥取県情報産業協会、鳥取県中小企業団体中央会等の業界団体</p> <p>(5) 鳥取県産業技術センター</p>	<p>支援機関向け育成プログラムの対象については、商工会議所を中心に想定していますが、その他の県内企業支援に関わる機関を対象に含めることも差し支えありません。具体的な対象機関については、事業効果を踏まえてご提案ください。</p>
20	(別紙1)仕様書 4 (7) 受講者募集に関すること	<p>参加企業募集に係る広報・周知活動について、県及び受託者それぞれの想定役割（県からの周知、支援機関への声掛け等）があればご教示ください。</p>	<p>原則、受注者において実施してください。なお、発注者においても、県公式サイトへの掲載等、県の広報媒体を活用した周知等、必要に応じて情報提供や周知協力を行う場合があります。</p>

21	(別紙1)仕様書 4 本業務の内容	各育成プログラム及び成果発表会について、県として想定している参加企業数・受講者数の目安や目標値があればご教示ください。	一律の目安や目標値は設定していません。仕様書の目的及び各実施方針を踏まえ、事業効果が最大化されるよう、適切な参加企業数・受講者数をご提案ください。
22	(別紙1)仕様書 4 本業務の内容	「AX・DX実装の伴走支援」について、県として想定されている支援レベル(例:課題整理、PoC、ツール導入、業務定着支援等)があればご教示ください。	特定の到達段階を指定するものではありませんが、単なるツール導入に留まらず、対象企業の経営変革や業務変革に資する伴走支援となることが望ましいと考えています。 また、成果発表会での発表を前提に、実施した取組の内容、得られた成果、今後の実装・定着に向けた課題及びロードマップ等が整理されていることが望ましいと考えています。
23	(別紙1)仕様書 4 (1) 企画・運営管理・連携体制の構築に関すること	鳥取大学及び支援機関との連携について、県からの調整・紹介等を想定している事項があればご教示ください。	鳥取大学、支援機関、県内企業等との連携については、提案者において、本業務の目的を踏まえ、関係機関との連携体制の構築に向けた効果的な実施方針を示すことが望ましいと考えています。 なお、発注者においても、必要に応じて関係機関への接続や調整に協力することを想定しています。
24	—	各プログラムに参加する社員・経営者および企業から費用を徴収する想定はありますか。また、徴収する場合、想定される金額があればご教示ください。	現時点で参加費を徴収することは想定していません。
25	(別紙1)仕様書 3 本業務の目的	3か年の継続的な取組を想定されているとのことですが、1年目の事業に対する成果指標があればご教示ください。	初年度の成果指標について、現時点で確定した定量指標は設定していません。 本業務は、個別の講座やイベントの実施に留まらず、企業内において人材育成と業務改革が継続的に行われるサイクルを形成し、これを地域全体で支える基盤づくりにつなげることを目指すものです。そのため、初年度においては、受講者の理解促進や伴走支援によるモデル事例の創出に加え、鳥取大学、支援機関、県内企業等との連携を通じて、次年度以降の展開につながる仕組みづくりが進んでいることが望ましいと考えています。

26	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>3 本業務の目的</p>	<p>(質問1)</p> <p>本業務は3か年計画の初年度と位置付けられておりますが、初年度として最低限達成すべき参加人数、アンケートの満足度、KPI及び成果物の水準等について、定量的な目安や期待値はございますでしょうか。</p> <p>(質問2)</p> <p>本業務は3か年計画の初年度とされておりますが、令和7年度以前に鳥取県において類似の業務（DX・AI人材育成関連事業等）が実施されていた場合、その実施内容・参加企業数・成果等の資料を参考として開示いただくことは可能でしょうか。前提となる状況をご教示いただけますと、より実態に即した提案設計が可能となります。</p> <p>(質問3)</p> <p>本仕様書において、「AX」は「AI等の先端技術を活用した業務変革（AIトランスフォーメーション）」と定義されておりますが、提案においては生成AI等を活用した業務効率化にとどまらず、業務プロセス変革や新たな付加価値創出まで含めた内容も対象として差し支えないでしょうか。また、各育成プログラムにおいて「DX」と「AX」を区別して設計することを期待されているでしょうか。それとも一体的なプログラムとして構成することで差し支えないでしょうか。</p>	<p>(1) 初年度の成果指標について、現時点で確定した定量指標は設定していません。</p> <p>本業務は、個別の講座やイベントの実施に留まらず、企業内において人材育成と業務改革が継続的に行われるサイクルを形成し、これを地域全体で支える基盤づくりにつなげることを目指すものです。そのため、初年度においては、受講者の理解促進や伴走支援によるモデル事例の創出に加え、鳥取大学、支援機関、県内企業等との連携を通じて、次年度以降の展開につながる仕組みづくりが進んでいることが望ましいと考えています。</p> <p>(2) 過年度の類似事業に係る資料については、受注者決定後、提供可能な範囲で共有することを想定しています。</p> <p>(3) 業務プロセス変革や新たな付加価値創出まで含めた内容として差し支えありません。また、DXとAXを厳密に区別する必要はなく、本業務の目的に沿っていれば、一体的なプログラムとして構成して差し支えありません。</p>
----	---------------------------------	--	---

27	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (1) 企画・運営管理・連携体制の構築に関すること ウ 企業、鳥取大学、支援機関等との調整</p>	<p>(質問1) 提案段階において、県から鳥取大学（特定の学部・教員等）に対して事前の打診が既に行われており、連携の土台が整っている状況でしょうか。それとも、受注者がゼロベースから教員の開拓及び調整を行う必要がございますでしょうか。</p> <p>(質問2) ワークショップへの学生参加について、大学側の授業やゼミ等の教育課程に組み込む形での参加が想定されているのでしょうか。それとも、受注者が独自に学生を募集する必要がございますでしょうか。</p>	<p>(1) 鳥取大学との連携については、発注者において同大学と事前の基本的な調整は行っていますが、現時点で特定の学部・教員等との調整を行っているものではありません。 提案者が同大学との連携内容を検討するに当たり、同大学と連絡を取る必要がある場合は、発注者にお問い合わせください。発注者において内容を確認のうえ、必要に応じて同大学の窓口をご案内します。 なお、同大学との連携内容については、提案者において主体的に検討してください。具体的な連携内容や教員等との調整については、受注者決定後、提案内容を踏まえ、必要に応じて鳥取大学を交えた協議のうえ進めることを想定しています。</p> <p>(2) 現時点で大学側の授業やゼミ等の教育課程に組み込むことを前提としているものではなく、受注者において募集・調整することを想定しています。</p>
28	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (1) 企画・運営管理・連携体制の構築に関すること エ 産学官連携による継続的な人材育成基盤の構築</p>	<p>「産学官連携による継続的な人材育成基盤の構築」について、令和8年度（初年度）終了時点でどのような形が実現されていけば目標達成と判断されるのか、具体的なイメージをお教えてください（例：関係者間の定期勉強会の立ち上げ・協定の締結・継続的なコミュニティの形成・次年度計画の策定 等）。</p>	<p>本業務は、個別の講座やイベントの実施に留まらず、企業内において人材育成と業務改革が継続的に行われるサイクルを形成し、これを地域全体で支える基盤づくりにつなげることを目指すものです。そのため、初年度においては、受講者の理解促進や伴走支援によるモデル事例の創出に加え、鳥取大学、支援機関、県内企業等との連携を通じて、次年度以降の展開につながる仕組みづくりが進んでいることが望ましいと考えています。</p>
29	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること イ ワークショップの実施 (ア) d 企業のメンター参画</p>	<p>提案書に候補企業を提示する際、当該企業から協力の内諾を事前に得ていることが必要でしょうか。それとも、提案段階での想定企業名の列挙（アイデアレベルの提示）でも差し支えないでしょうか。</p>	<p>提案時点で、候補企業からメンター参画の正式な合意を得ていることまでは必須ではありません。 ただし、正式な内諾又は協力の見込みがある場合は、実現可能性の高い提案として望ましいものと考えています。</p>

30	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること ウ AX・DX実装の伴走支援 (イ) 対象企業</p>	<p>伴走支援の対象は2社以上とされておりますが、業務期間(令和9年3月5日)までに、どの段階までの到達を期待されていますでしょうか。</p> <p>(例:課題の特定・要件定義の完了まで/AIツール等の導入・PoC(概念実証)の実施まで/本格的な運用定着の実現まで 等)</p>	<p>特定の到達段階を指定するものではありませんが、単なるツール導入に留まらず、対象企業の経営変革や業務変革に資する伴走支援となることが望ましいと考えています。</p> <p>また、成果発表会での発表を前提に、実施した取組の内容、得られた成果、今後の実装・定着に向けた課題及びロードマップ等が整理されていることが望ましいと考えています。</p>
31	<p>(別紙1)仕様書</p> <p>4 (3) 経営層及び企業内推進役向け育成プログラムに関すること イ ワークショップの実施 (ア) c 鳥取大学との連携</p>	<p>本プログラムにおける産学官連携エコシステムの構築に資する実効性の高い提案を行うため、県が想定される「専門的知見」の具体的な期待値・役割について、以下の3点をご教示いただけますでしょうか。</p> <p>(質問1) 「専門的知見」として期待する具体的な領域について 受講者へ提供する知見として、現時点での方針や重点テーマの想定がございましたらご教示ください。</p> <p>(質問2) ワークショップにおける教員の具体的な役割(関与の深さ)について 知見提供の場として、ワークショップ内での「基調講演・講義」といった全体向けのアプローチを想定されているのでしょうか。それとも、受講企業の課題整理や解決策検討の場における「技術顧問・アドバイザーとしての個別フィードバックや助言」といった踏み込んだ関与を期待されているのでしょうか。</p> <p>(質問3) 想定される学部・研究室や既存の連携実績について 提案における大学との連携方針を検討するにあたり、本事業との親和性が高いと考えられる学部・研究室や具体的な教員の想定はございますでしょうか。受注者がゼロベースで連携領域を模索すべきか、既存の産学連携の土台を活用して企画すべきか、前提となる状況をご教示いただけますでしょうか。</p>	<p>(1) 専門的知見の領域については、企業におけるビジネス活用につながる内容が望ましいと考えています。また、鳥取大学が有する専門的知見と地域特性を踏まえた内容となることを期待します。</p> <p>(2) ワークショップにおける鳥取大学教員の役割については、単なる講義に留まらず、技術顧問又はアドバイザーとして、受講企業の課題整理や解決策検討に助言するような関与を想定しています。</p> <p>(3) 現時点で特定の指定はありません。既存の産学連携の土台を活用することも考えられますが、調整を要する場合も想定されるため、実現可能性を踏まえた連携方法をご提案ください。</p>

32	(別紙1)仕様書 4 (4) 支援機関向け育成プログラムに関すること ア 知識習得講座の実施 (ア) 実施方針	支援機関向け知識習得講座における「AIを活用したデジタルツール体験」として、発注者が現時点で想定している具体的なツール・技術領域(例:生成AI活用、業務自動化ツール、RPAなど)はございますでしょうか。また、受講後に「基礎的なAI活用支援を行うことができる水準」として期待されるスキルセットの具体的な内容をお教えてください。	基本的には生成AI関連ツールを想定しています。具体的なツールや技術領域については、支援機関職員が県内企業に対して基礎的なAI活用支援を行うために有効な内容をご提案ください。 受講後の水準としては、支援機関職員がAI活用の全体像を理解し、簡易な活用方法を助言できること、又は必要に応じて関係機関等につながる水準を想定しています。
33	(別紙1)仕様書 4 (5) 成果発表会に関すること ア 実施方針	「県外」の成功事例の収集・発信は受注者が主体的に調査・手配することが求められますでしょうか。また、想定している成果発表会の規模(参加者数・会場の規模)についてご教示いただけますでしょうか。	県外の成功事例の収集・発信については、受注者が主体的に調査・手配してください。 成果発表会の規模については、一律の目安は設定していません。鳥取県内企業にとって参考となり、参加しやすい規模感となるよう、適切な規模及び実施方法をご提案ください。
34	(別紙1)仕様書 4 (6) 各育成プログラム及び成果発表会の実施に関すること イ 実施方法	各プログラムおよび成果発表会の会場確保について、鳥取県庁や県所有の公共施設を無償または低廉な価格で使用できる可能性はございますでしょうか。また、会場の手配は原則として受注者が行うこととなりますでしょうか。	本業務において県有施設の優先利用、使用料減免の取扱い等は想定していません。会場は、受注者において確保してください。